

産官学連携フェスティバル2008 ポスター発表申込書・要旨原稿

テーマ

鳥取砂丘の総合資料の収集整理とその活用

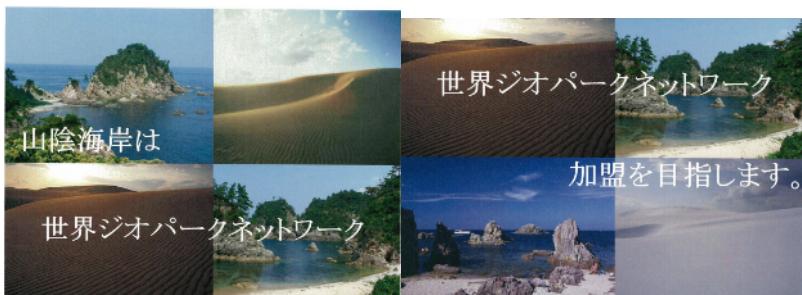
「山陰海岸ジオパーク」設立へ鳥取砂丘資料作成 -

発表者

西田良平 鳥取大学 名誉教授

小玉 芳敬 鳥取大学地域学部 准教授

概要 「山陰海岸ジオパーク」は京都府・兵庫県・鳥取県、京丹後・豊岡市・鳥取市、香美町・新温泉町・岩美町の3県3市3町に及ぶ地域をジオパークとして認定を受け、郷土の自然を保全し、活用することを目指している。山陰海岸の地球的な価値を知ること、社会教育・学校教育での活用、地域振興としてジオツーリズムの開発などを今後実施して。そのために、「鳥取砂丘・浦富海岸」の基礎資料について、その把握を行った。



山陰海岸は風光明媚な地域であり。この地質・地形を形作っているものは日本列島の形成(日本海の拡大による)に関連した地質学的事象で、地球科学的事例の宝庫である。**東は京都府の天橋立から、西の白兎海岸まで2000万年の歴史的な景観・海岸地形・地質現象が自然の状態で残っている。**この地域を**世界遺産に匹敵する「ジオパーク」**の認定を受けるために活動が始まっている。

鳥取県での取り組み

この構想は山陰地域の連携が必要であり、産官学が一致して運動を展開して行くことが必要である。鳥取地域では、「山陰海岸ジオパーク」構想の普及活動を行うと共に基礎資料として鳥取砂丘資料の総合的な収集整理を行い、「**鳥取砂丘・浦富海岸の価値**」を再認識し、作成した**総合資料の知的財産を多分野で活用する**。

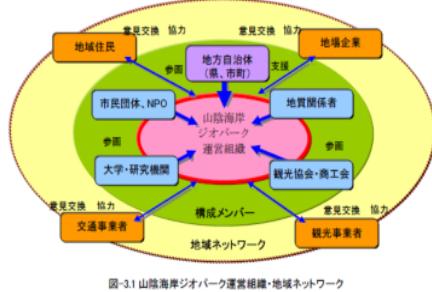


図-3.1 山陰海岸ジオパーク運営組織・地域ネットワーク

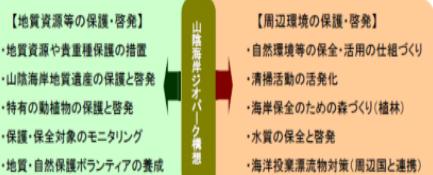


図-1.6 地質や自然環境等の保護・保全に関する取組みイメージ

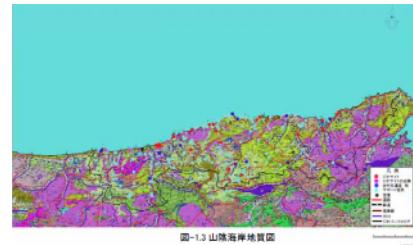


図-1.3 山陰海岸地質図

ジオパークとは（ユネスコのジオパーク）

ユネスコでは1997年 UNESCO Geopark Programme を提唱、2004年に Operational Guidelines for National Geoparks seeking UNESCO's assistance を定めた。

地質学的重要性だけでなく、考古学的・生態学的もしくは文化的な価値もある1箇所ないしそれ以上のサイトを含む地域である。

持続可能な社会・経済発展を促進するための経営計画を有する(例えばジオツーリズム)。

- ・地質遺産を保存・改善する方法を示し、自然科学(地学)や環境問題の教育に活用する。
- ・公共団体・地域社会ならびに民間による共同行動計画を持つ。
- ・世界遺産の保存に関する最善の実践例を示し、持続可能な開発戦略へ融合していく国際ネットワークの一翼を担う。

ユネスコ地球科学部長F. W. Eder 氏はこれを端的に**保全**・**教育**・**ジオツーリズム**と要約している。このガイドラインに従ってWorld Geoparksが認定されており、中国、ヨーロッパが多く指定されている。

[来場者へのメッセージ]「山陰海岸ジオパーク」を推進して下さい。そのために、県民一体の応援と参加が必要です。

連絡先：放送大学鳥取学習センター 所長 西田良平

鳥取市富安町2-138-4 TEL. 37-2351 E-mail: tottori-head@u-air.ac.jp

分野